

# 図書館かがわ

香川県立図書館報 第101号

発行日 2013.10.1

Library Kagawa

ISSN 1344-5464



風の力で、空中の風船がくるくるまわったよ！



ハノイの塔のパズルに挑戦！

## ◎ 「科学体験フェスタ」 ◎

夏休み期間中の小学生を対象とした「科学体験フェスタ～県立図書館で科学遊びを楽しもう！～」を8月3日（土）に開催しました。この行事は、香川高等専門学校と連携して平成24年度から開催しており、第2回目となる今年も昨年同様100名を超える参加者でにぎわいました。

参加した子どもたちは、香川高等専門学校サイエンスクラブの学生から説明をうけながら体の横で振ると音がする不思議なパイプや、三本の杭と大きさの違う円盤を使ったハノイの塔のパズルなどを楽しみました。

また、同時に開催した公開講座では、太陽光パネルとモーターを使って「太陽電池で動く回転のぞき絵」を作成し、身近な自然エネルギーを体験することができました。

この行事は、図書館で子どもたちが技術や科学のおもしろさに触れ、新しい発見や驚きと出会うきっかけづくりをしたいと思い開催しました。今後もこうした出会いを様々な分野で提供していきたいと思っています。

# ★★★県内公共図書館の新しい顔 新館★★★

## まんのう町立図書館 平成25年6月1日 オープン！

まんのう町立図書館には、「県内初」がたくさんあります。  
 ☆PFI（公共施設の建設・維持管理を民間企業が行う手法）を導入して設置されました。  
 ☆町立満濃中学校・町立体育館（中学校の体育館も兼ねる）との合築なので、町立図書館と学校図書室が隣接しています。  
 ☆資料の貸出は、利用者がセルフ貸出機を使って行います。  
 ☆電子書籍が読める楽天koboが100台貸出できます。



### ポイント1

## わかりやすい、使いやすい、居心地のよい図書館



閲覧室の真ん中に、一番奥の壁際まで届く長いセンターテーブルがあります。このテーブルから右側のエリアは子ども向けの本や子育て支援コーナー、家事・料理・小説など。左側は調べものの本や郷土資料、レファレンスデスクなど。どうしても音が出てしまう子ども連れの利用者と、静かに調べものをしたい利用者が、共存できるフロア構成になっていますね。

また、図書館の本はたいていNDC（日本十進分類法）で並んでいますが、ここではパソコン利用席の近くにコンピュータ関連書籍やビジネス書を置いたり、家事・料理・ペットの本をまとめて置いたりしています。

書架は平行ではなく、斜めに配置されています。どの書架に何があるのか、一目でわかる工夫です。

### ポイント2

## いつ来ても初めて見る景色

入口付近の企画展示は、2週間に1回入れ替えています。取材時には「ミステリー」をテーマとした展示で、床には足跡、本棚には事件現場に貼られる黄色いキープアウトのテープ。次に来る時にはどんな展示かな？と楽しみになりますね。夏休みには子ども向けのゾーンに宿題用の本をまとめて置くなど、季節に応じて特集展示もしているそうです。



← 中・高校生向けの本を集めた「teen'sコーナー」。この隣に、中学校図書室があります。

合築した中学校との連携が今後の課題だそうです。

↑ 新しい絵本がたくさん！奥には独立したおはなしの部屋も。

まんのう町立図書館は「株式会社リブネット」が運営しています。

## この本オススメです！

～図書館の本棚からピックアップ～

「青い鳥文庫ができるまで」  
 岩貞るみこ／作  
 (講談社) 2012. 7  
 (請求記号：020 / I1)



「児童書のまちがいは、  
 万死に値する。」

この本は実在する講談社「青い鳥文庫」の架空の人気シリーズ小説「白浜夢一座がいく!14」ができるまでをノンフィクションタッチで描いた作品です。この話は、本の企画からその本が書店に並ぶまでの編集者の仕事を丹念に描いています。

私が一番興味を持ったのは校正作業です。校正作業は、作者の書いた原稿の間違いを訂正する部署である校閲局が行います。児童書は正しい日本語を読者である児童に教えるという役目も担っているため、校正作業には特に力を入れているようで、「児童書のまちがいは、万死に値する。」という記述が心に残ります。

校正作業は、まず、本作りに関するルールが入れられた「専用ソフト・セントワーズ」で事前にチェックを行い、児童書にとって重要なルビは専用ソフトで一括付与されるそうです。次に、いよいよ人手による作業です。社内と社外の校閲のエキスパートがそれぞれチェックを行い、最後は二人で照らし合わせてから編集者に戻すそうです。「だれが書いたかわからないようなネットの情報は信用せず、辞書や事典、歴史書などで調べていくのが校閲軍団の仕事の基本である。」という部分がとても印象的でした。

1冊の本を作るためにどれだけのエネルギーが費やされているか、この本を読むととてもよくわかります。本好きな子に是非読んでほしい一冊です。

「春にして君を離れ」(旧版)  
 アガサ・クリスティー／著、中村妙子／訳  
 (早川書房) 1987. 6  
 (請求記号：B11 / C502 / 1)



メアリー・ウェスト  
 マコットって誰？

本書は、ミステリーの女王と言われたアガサ・クリスティーの小説ですが、出版当初は、メアリー・ウェストマコット名義で刊行されていました。彼女の他の作品群と異なり、ミステリーではないため、読者をがっかりさせないように配慮したのだそうです。

主人公は、中産階級の美しい中年女性で、夫は弁護士事務所を経営し、成功を収めています。子どもたちは成人し、ひとかどに暮しており、自分では、これまで幸せな生活を送ってきたと満足していました。

ところが、その幸せが見せかけのものだったと気づく時が訪れます。外国で暮している娘の病気見舞いの帰路、雨の影響で交通がストップし、身動きがとれなくなってしまいます。読む本もなく、話し相手もない中、忙しい生活のなかで、顧みることのなかった過去の事に思いを馳せるうち、その時まで気づかなかった(気づかないようにしてきた)事実に向き合わざるをえなくなるのです。

主人公は、いわゆる悪人ではありませんが、「あなたのため」「子どもたちのため」と言いながら、相手の意見を尊重せず、自分の意見を押し通し続けたことにより、家族から疎まれていた女性です。彼女を描写する作者の筆は容赦なく、その救いのなさは恐怖を覚えるほどです。

ミステリーでもホラーでもない物語で、これだけの「怖さ」を引き出しているのは、さすが、クリスティーと言えるでしょう。

# 「これなんな—??」 ブックポストの真顔、お見せします。



ブックポストってなんでしょう？  
返却ポスト、図書ポストなどとも呼ばれ、図書館が閉館している時間に、利用者が本を返却するための設備です。



場所は県立図書館の正面玄関東側の壁面にあります。



左の写真を拡大したものです。投入口が2つあり、ここから本を返却することができます。



返却された本を建物の中から見ると、こんな風になっています。



ブックポストに返却された本を取り出し、整理しています。

ブックポストを使用される時は次のことにご注意ください。

- 図書館の開館時間中は図書館カウンターへお返しく下さい。
- CD・カセットなど壊れやすいものや、近隣の図書館から借り受けた他館資料は、開館時間中に直接カウンターまでお持ちください。

図書館の本は公共の財産です。貴重な本もたくさんあります。県民の財産を守り、多くのひとが気持ちよく利用できるようマナーを守って、大切に扱ってください。

編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19 (香川インテリジェントパーク内)

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<http://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>